

磐城時報

青森下關間騎乘
十月上旬決行
附近九ヶ村で柳田氏を應援

本社の水源地視察

六十余名で決行

大瀧發電所計劃地から 平水道水源地まで

本社主催の平水道水源地並に大を待つて取入口、大瀧江筋に對し視察所計劃地の視察は十九日詳細な説明をされた。午後二時決行されたが、定刻午前八時三十分好間村上原なる平水道通過地集合地たる好間軌道停留前に池及び沈澱池を視察し軌道にて集る者六十余名、午前八時十分午後四時四十分の間に好間村大字町田終点にて下車、それより小田炭礦舊平炭礦等を過して本水源地に至るまで、松電氣會社大瀧第一發電所に至るまでの行程は遺憶であつた。

灌漑水不足

各河川から揚水

小名濱町地方は灌漑水不足、毎度結核準備委員會を開き支部長年補付けに困り昨年の如きは植に横山原氏を推す事に決定した。

蘭の出廻り

鐵道貨物輻輳

一般貨物は早く出せ

平水地方の蘭は愈々各需要地に輻輳から一般貨物の貨車配給難向つて去る十五日から發送されに陥るやうなことがあつては困るからとの之れが圓滑を計るべく十五日二車、十六日四車、十七日五車と日を追つて多數の發車貨車配給に充分なる準備を整へ取入口預定地を視察し、山傳ひを見つゝあり廿日以後は十車内萬遠算なきを期してゐるが之に平水道取入口に至る、事務所外の發送を見るもの、如き豫想つき同僚係員は生蘭の出廻りは平水道課から小野書記一行なので平水道貨物係では蘭輸送の各地方殆んど同一期のものであるから結局貨車不廻りの叫びを聞くに至ると共に一般貨物の發送が遅延するやうな傾向に於けるから一定の期日に先方へ着荷せしむる様な貨物に對しては從來の運送所要期間二日と見てゐたものは三日なり四日なりに見て一定の期日に到着なし得るやうな區間にあつて二日なり四日なり早めに發送し得る機運に注意し、出荷して貰へば其輻輳を幾分でも緩和する事が出来ること同様に一般荷主に對し大なる迷惑をかけるやうな事なせうと語つた。

支部長決定

日勞黨の

日本勞農黨磐城支部發會式は來る七月三日平町で舉行する事既に報の如くであるが、十九日内郷村なる日本坑夫組合常務支部長を推す事に決定した。

青森下關間騎乘

十月上旬決行

附近九ヶ村で柳田氏を應援

既報一青森、下關間を單身長途出せるは村の名譽であるとし、騎乘計劃の石城郡入遠野村柳田口村長を始め學村一致に應援する事になり、氏のためには少くも、今年石城郡第一區から盡力をしてゐる。

柳田氏の壯圖を賞揚

（入遠野村外ヶヶ村）副區長志賀吉吉氏は柳田氏の壯圖を賞揚し、同區にて生産した馬三頭を候補馬として提供することになった。

柳田氏は更に元氣を増し死力を以て之に當る事を誓ひ尚志賀氏外有志と相談の結果十月十日決行する事に決定したが、上旬決行する事に決定したが、福島競馬會の際出陣竹中技師に面會し種々指導を受ける筈であるが、入遠野村ではこの世界に記録のない長途騎乘の勇士を十五分平發列車で水戸地方に向

井上氏上京

居室で溢死

好間村大字上好間字岸雜貨商

田清好の母吉田ツヨ（四十八）は十八日午後一時頃居室で溢死を遂げた。清好の祖母吉田ラクが發見届出で、平水署から佐藤部長出張検死したが、死者は去月二十五日頃から強度のヒステリーにかゝり臥床し同村城戸醫院の治療を受けてゐたが、最近では病勢愈々募つたのを悲観して溢死した。

病を悲觀し

居室で溢死

水戸見學

鹽屋の店員

無産者よ！記憶せよ！！
吾々の一行が大体の視察を終つて水利委員の重要地位に在る花澤久一郎君の暴言に驚嘆、その責任ある答辯を求めんとするものである。昨日十九日本社が催した平水道水源地並に大瀧發電所計劃の實地視察は参加者六十余名、豫定の如く二本松發電所から大瀧發電所取入口、水路敷地、平水道取入口、大瀧江筋取入口等を視察し午後一時平水道通過地並に沈澱池に到達した、その際の事である。沈澱池擴張工事當日の現場監督の水道委員は花澤久一郎君であつたが、

無産者よ！記憶せよ！！
吾々の一行が大体の視察を終つて水利委員の重要地位に在る花澤久一郎君の暴言に驚嘆、その責任ある答辯を求めんとするものである。昨日十九日本社が催した平水道水源地並に大瀧發電所計劃の實地視察は参加者六十余名、豫定の如く二本松發電所から大瀧發電所取入口、水路敷地、平水道取入口、大瀧江筋取入口等を視察し午後一時平水道通過地並に沈澱池に到達した、その際の事である。沈澱池擴張工事當日の現場監督の水道委員は花澤久一郎君であつたが、

